

大竹しのぶ コンサート「恋心」 ～思ひは時間を超えて、今も昔も～

実施概要

- タイトル : 大竹しのぶコンサート「恋心」～思ひは時間を超えて、今も昔も～
- 企画意義 : 瀬戸日本館 群読叙事詩劇「一粒の種」のテーマ「自然とともに生きる日本人の知恵・技・こころ」をイベントを通じて感じてもらうことを目的に、「一粒の種」の関連催事として企画。
自然の叡智を受け継ぐ“日本の伝統の詩”を現代の舞台・音楽表現で、より親しみやすい表現へと昇華。コンサートを越えた舞台という芸術表現が、大人から子供たちすべての人たちに、単なるアトラクションにはない忘れ得ない体験を提供し、自然の叡智を心に深く残します。
- 主催 : 経済産業省、財団法人2005年日本国際博覧会協会
- 実施日時 : 2005年6月29日(水) ①16:30 ～ 17:15 / ②18:00 ～ 18:45
- 実施場所 : 愛・地球博 長久手会場 長久手日本館前 日本広場特設ステージ・にっぽん華座にて。
- 出演者 : 大竹しのぶ (女優)
- 制作スタッフ :
 - 総合プロデューサー / 天野 孝之
(2005年日本国際博覧会協会 群読叙事詩劇「一粒の種」総合プロデューサー)
 - 製作プロデューサー / 北村 明子 (シスカンパニー 代表)
 - 演出 / 鈴木 勝秀 (演出家)
 - 美術 / 二村 周作 (美術作家)
 - 衣装 / 前田 文子 (舞台衣装家)
- 舞台プログラム: 曲に合わせた小野小町の歌の詠唱や、詩歌朗読のほか、万博に関連した自然の叡智や恋愛についてのトークを交えながら、恋に関連する歌を披露。また群読叙事詩劇「一粒の種」の台詞を楽曲にしたオリジナル曲も初めて披露する。
- 観覧方法 : ★ 6月29日(水) 各回ともに約500枚整理券配布予定 ※配布場所、配布時間 調整中

2005年日本国際博覧会 政府出展事業 「瀬戸日本館」

ひとつぶ たね
群読 叙事詩劇 「一粒の種」 概要



- タイトル : 瀬戸日本館 群読 叙事詩劇 「一粒の種」 ～ 響きあう知恵の記憶、わたしがはじまる ～
- 実施日程 : 2005年3月25日(金) ～ 2005年9月25日(日)
- 実施場所 : 愛・地球博 瀬戸日本館 2階 円形シアター
- 実施詳細 : ・1回の上演は約15分間 / ・1日に10数回上演 / ・会期中185日間毎日ライブ上演
- 製作スタッフ :

○ 作・演出・音楽・美術 / J・A・シーザー	○ 舞台製作プロデューサー / 北村 明子
○ 独楽デザイン / 小竹 信節	○ 照明 / 小川 幾雄
○ 音響 / 尾崎 弘征	○ 映像 / 奥 秀太郎
○ 衣装 / 前田 文子	○ 振付 / 謝 珠栄
- 出演キャスト : 男女 計 66名 (男36名、女30名)
※2グループに分かれ(1グループ33名)、交替制で上演します。
- 出演キャスト 年齢 : 20才～34才 平均年齢24.5才
- 出演キャスト 出身地 : 愛知 47名、岐阜 6名、東京 5名、大阪 4名、兵庫 2名、静岡 2名
- キャストの配役(1グループ) : 少年4名、少女4名、群読 23名、風神・雷神 各1名
- 舞台(中心部のみ)大きさ : 17m² / シアター全体のスペース : 320m²

群読叙事詩劇「一粒の種」は、昔の人々の知恵やこころを伝える教えの言葉、祭礼の掛け声、童謡、童話などを集めてセリフで表現する群読という手法を用いた臨場感あふれる演劇によって、自然と共に生きる人々の物語を展開します。特徴は、群読すなわち、ギリシア悲劇のコロス、能・狂言の地謡に見られる「唱和により人の感情を高めて表現する演劇手法」を取り入れている点です。 ※ ※

会場の円形シアターは、中央ステージを囲むように観客席が配置され、少年、少女、風神、雷神そして群読の配役ら33名(1グループ)が、相撲の土俵や神輿などをイメージしてつくられた円形シアターの中央ステージを囲い込みます。

そして、約15分間の上演の中で、祭りのシーンをはじめ、香具師(やし)の口上シーン、三々七拍子のシーン、雨ニモマケズの群読シーンなどが次々とテンポよく繰り上げられます。その空間は、言葉、音が縦横無尽に飛び交い、映像、照明がそれに協和する劇的空間です。全日程の舞台公演をライブで展開します。

※クロス : ギリシア悲劇の演出のひとつで主人公の心情などを集団が合唱のカタチで唱和する

※地謡 : 能のひとつで第三者の客観的立場でその出来事や風景、心情を謡う合唱団